

## 長崎版 PHRF (TCF) について

先日のヨットマンの集いのお知らせしましたように、H29年のレースより長崎県外洋帆走協会が管理するクルーザーレースのハンディキャップを資料1のとおり変更いたします。

従来は20数年前に濟州島レースで使用したクルーザーレーティング(CR : Time on distance)方式を採用して、何度か見直してまいりましたが、2008年くらいからレーティングシステムがIRC主体に移行してくるのとあわせて、IRCを意識したスポーツボートの出現が目立つようになり、現在長崎で用いているCR方式では対応できない状況となってきました。

そこで、これを機に長崎のレーティングシステムを現在国内のヨットレース界でスタンダードとなっているIRCをベース(性能の比較)としてTCF(Time on Time)方式に見直すことを提案するものです。

新しいレーティングの決定方法としては、ここ数年に全国で行われたレース結果資料をネットで収集し、これらをもとに長崎で行われているレースに参加した艇及び各水域のレースに参加した艇について新たなレーティングを設定しました(資料1)。

さらに、この数値をもとに長崎県下で行われたレースについてシミュレーションを行い、その結果を資料2～資料6に示しました。

資料2 : ハウステンボスレース

資料3 : 長崎オープンレース、16年軍艦島レース

資料4 : 小浜・長崎レース

資料5 : 長崎帆船まつりレース

資料6 : 五島灘横断レース

その結果、いろんなタイプのヨットでも、十分上位を狙えるレーティングとなっていると判断するものです。

しかしながら、今後まだ改善の余地はあると思いますので、気になるところ、疑問点等があれば下記までご連絡ください。

長崎 峯 (メールアドレス : k-mine@ngs2.cncm.ne.jp)